

平成25年度第1回医療と介護の連携研修会アンケート結果まとめ

日時: H25.8..8(木) 6:30pm~8:30pm 会場: 出羽庄内国際村ホール

1. 出席状況とアンケート回収率

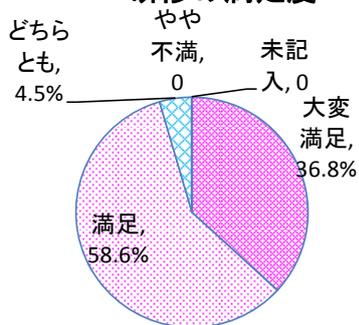
出席者数167名

		申込者数	出席者数	回答数	回収率
医療機関関係業務従事者	病院医師	2	2	5	83.3%
	診療所医師	5	4		
	歯科医師	1	1	1	100.0%
	薬剤師	1	1	1	100.0%
	看護師	37	34	28	82.4%
	歯科衛生士・歯科助手				
	医療ソーシャルワーカー	2	2	2	100.0%
	介護福祉士・介護員	3	2	2	100.0%
	事務	2	2	0	
小計	53	48	39	81.3%	
参考	前回医療機関関係者状況	30	31	25	
福祉関係業務従事者	介護支援専門員	52	45	32	71.1%
	看護師	9	9	6	66.7%
	介護福祉士・介護員	22	17	16	94.1%
	相談員	7	6	0	
	作業療法士	1	1	1	100.0%
	管理栄養士				
	地域包括支援センター	31	31	22	71.0%
	事務				
	管理者				
小計	122	109	77	70.6%	
参考	前回福祉関係者状況	106	88	54	
その他	その他(行政、保健所、他市参加者等)	8	10	10	100.0%
総計		183	167	126	75.4%

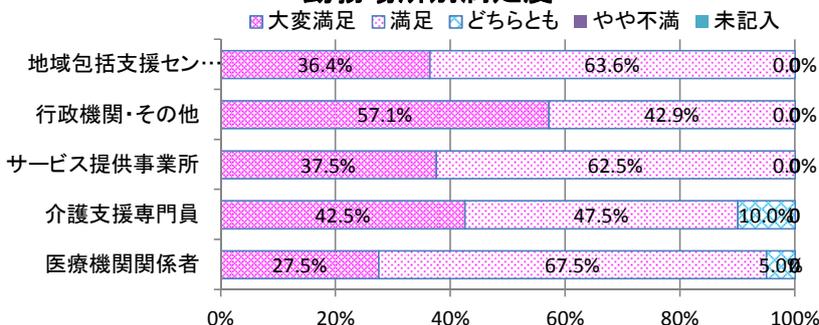
2. 所属ごとの満足度

所属		大変満足	満足	どちらとも	やや不満	未記入	総計	割合
医療機関関係者	人数	11	27	2			40	30.1%
	割合	27.5%	67.5%	5.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
介護支援専門員	人数	17	19	4			40	30.1%
	割合	42.5%	47.5%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
サービス提供事業所	人数	9	15				24	18.0%
	割合	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
行政機関・その他	人数	4	3				7	5.3%
	割合	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
地域包括支援センター	人数	8	14				22	16.5%
	割合	36.4%	63.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
合計	人数	49	78	6	0	0	133	100.0%
	割合	36.8%	58.6%	4.5%	0.0%	0.0%	100.0%	

研修の満足度



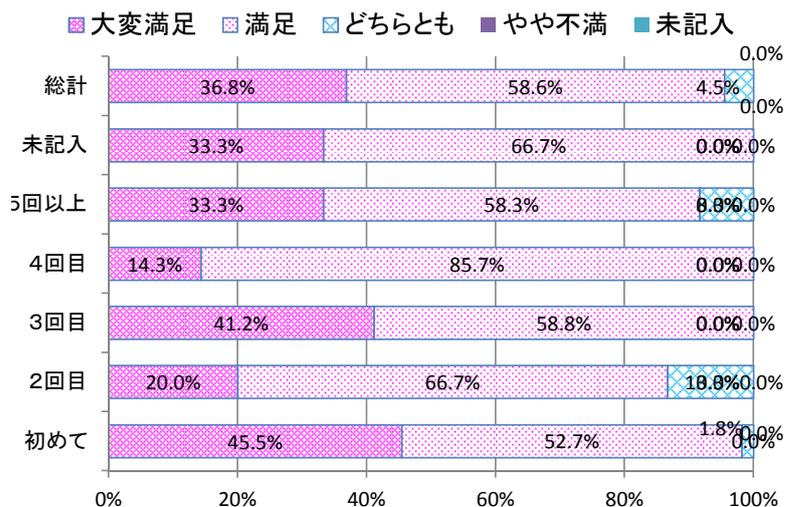
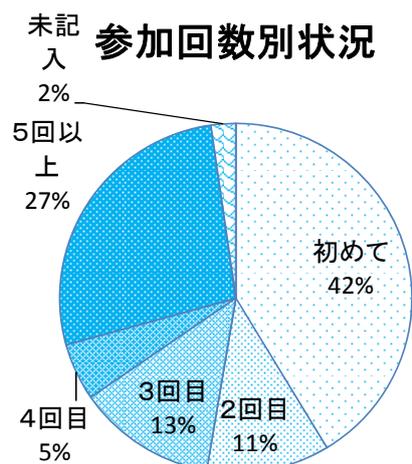
勤務場所別満足度



3. 参加回数ごとの満足度

参加回数		大変満足	満足	どちらとも	やや不満	未記入	総計	割合
初めて	人数	25	29	1			55	41.4%
	割合	45.5%	52.7%	1.8%	0.0%	0.0%	100.0%	
2回目	人数	3	10	2			15	11.3%
	割合	20.0%	66.7%	13.3%	0.0%	0.0%	100.0%	
3回目	人数	7	10				17	12.8%
	割合	41.2%	58.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
4回目	人数	1	6				7	5.3%
	割合	14.3%	85.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
5回以上	人数	12	21	3			36	27.1%
	割合	33.3%	58.3%	8.3%	0.0%	0.0%	100.0%	
未記入	人数	1	2				3	2.3%
	割合	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
総計	人数	49	78	6	0	0	133	100.0%
	割合	36.8%	58.6%	4.5%	0.0%	0.0%	100.0%	

参加回数ごとの満足度



1. 研修会の満足度ごとの理由

【大変満足】

- ・本人との関わりを図にすることで、とてもわかりやすくなり、他に何が必要なのか、不足しているものを気づききっかけになると思いました。
- ・40代前半の若い方、精神的、身体的に問題ある方をかかわったスタッフ皆様の協力にてご本人様の希望である在宅で最後をむかえられた事は素晴らしいと思えました。
- ・チームで支援していく大切さが分かった。
- ・様々な職種の間わり方を学ぶことが出来た。顔の見えるつながりができた。
- ・多様な職種の方とディスカッションできた
- ・グループワーキング、話し合いがとても盛り上がりました。
- ・医療職の方と一緒にグループワークでき、自分と違う視点の気づきがあり勉強になった。
- ・自分の知らない分野のお話がしっかり聞けた。
- ・障害の支援について勉強することができた。
- ・障害者の緩和ケア事例、「Aさんの望むくらしの写真の母子の笑顔に感動。支援のたまものです!!!」
- ・本人を中心として、どれだけの事を考えられるか

【満足】

- ・いろいろな職種の方の話の聞けた。
- ・これまで知る事のなかった自立支援法による在宅死が可能であることを知った。
- ・介護福祉関係の職種内容がわかった。
- ・支援する制度、各職種での連携について学べた。
- ・事例紹介が早口でマイク音も小さかったのでききとりにくかった。(きずなさんの)エコマップを使ったグループワークはいろいろな考えがきけて良かった。
- ・初めての事でやる事わからず、皆さんの話を聞くことで、精いっぱいだった。仕事に生かせるよう(退院時連携)勉強していきたい。
- ・障害者世帯の介護、あるいは終末期がテーマに入っていてよかった。
- ・多職種での間わりがこんなにも密にできていることを知り、今後も続けていってほしいと感じました。
- ・多職種との連携・情報交換の大切さ、ひとりの方へのアプローチについて確認でき、今後につなげていきたい。と実感できた。
- ・難しくなかった。
- ・普段、病院で働いているので、退院後の支援はあまり分からなかったのですが、地域連携をみることができた。
- ・晋段は顔をあわせたり、話をすることのない方々と知りあえたことや連携の仕方についてを知ることができた。
- ・様々な職種の方とグループワークできて、それぞれの視点での発言を聞いてよかった。

【どちらともいえない】

- ・自分には難しかった

1-2.研修の満足度を選択した際の理由(業種別)

所属	意見
医療関係の感想	介護福祉関係の職種内容がわかった
	様々な職種の関わり方を学ぶことが出来た。顔の見えるつながりができた。
	今までない、精神疾患Pt+がんというケースについて学び深かったです。その人の力を引き出し、強め、支えることを大切にしていきたいと。
	普段、病院で働いているので、退院後の支援はあまり分からなかったのですが、地域連携をみる事ができた。
	普段の業務では、考えられない意見を聞いて良かった。
	障害者支援センターとの関わりや、精神疾患の方への関わり方について知ることができた
	40代前半の若い方、精神的、身体的に問題ある方をかかわったスタッフ皆様の協立にてご本人様の希望在宅で最後をむかえられた事はすばらしいと思いました。 支援する制度、各職種での連携について学べた
居宅ケアマネ	医療職の方と一緒にグループワークでき、自分と違う視点の気づきがあり勉強になった。
	多職種の方々との話し合いの中で、色々な意見を聞いて考え方の違い等があり、楽しく過ごせました。
	多職種との連携・情報交換の大切さ、ひとりの方へのアプローチについて確認でき、今後につなげていきたい。と実感できた。
	障害者支援のケースをみる事ができた。
	チームで支援していく大切さが分かった。
	考えた事のない事を考えさせられました エコマップを使ったグループワークはいろんな考えがきけて良かった。
サービスマネジメント提供事業者	自分の知らない分野のお話がしっかり聞けた
	普段は顔をあわせたり、話をする事のない方々と知りあえたことや連携の仕方についてを知ることができた。
	本人を中心として、どれだけの事を考えられるか。
	いろいろな職種の方の話を聞けた。
	多職種での関わりがこんなにも密にできていることを知り、今後も続けていってほしいと感じました。 精神障害を持つ方との関わりを初めて勉強させて頂きました。
地域包括	グループワーキング、話し合いがとても盛り上がりました。
	様々な職種の方とグループワークできて、それぞれの視点での発言を聞いてよかった。
	本人との関わりを図にすることで、とてもわかりやすくなり、他に何が必要なのか、不足しているものを気づききっかけになると思いました。
	障害の支援について勉強することができた。
	医療関係者と十分な情報交換ができた。
	いろんな職種の方々がひとつの事例を話し合うのはとても大切な事だと思いました。という意味で良いと思いました。ただ、エコマップは参加者の理解度に差がありすぎて、エコマップの説明に時間をとられ、結局エコマップではなく自由記載になりました。要検討ですね。
行政・その他	障害者の緩和ケア事例、「Aさんの望むくらしの写真の母子の笑顔に感動。支援のたまものです!!!」
	これまで知る事なかった自立支援法による在宅死が可能であることを知った。

2. 今回の研修会に参加しての気づき(所属別)

所属	意見
医療関係の感想	障害者と要介護の違いについて初めて考えるきっかけができました
	地域でのサポートが、これほど充実しているということ、はじめて知った。どんな対象に対しても生きる力をサポートしていくという、後藤先生の言葉、参加者の皆さんの感想をきき、その大切さに気づいた。
	病院の外での医療のネットワークの強さ。
	Dr-Dr連携の困難さ
	福祉制度の利用、連携(多職種)
	情報共有の大切さ
	病院外で、患者・家族を支えるスタッフの努力に気づいた。
	事例ごとに、支援の方法はあること、個別性がとても重要であること。
	地域連携の重要性、支援・サービスの知識の必要性
	様々な職種がかかわっていることにおどろいたこと。自分の視野のせまさを考えさせられた。
本人を中心に同じ方向を向いて支援していく。	
居宅ケアマネ	チームアプローチ、顔の見える関係作りの重要性。「生きる力」を支援すること。援助者間でのストレスの軽減も必要。
	支援行為には関係職種の連携が大切だと改めて思った。
	病気を見るのではなくその人を見る。生きる力に関係者が一つになり支援できた。
	薬剤師も有力な資源だと思った。
	多職種連携の広い力に気づかされました。
	それぞれの役割と関わり、予知・予測の情報の共有は顔を見て行うことが大切。
	多職種がたくさん関わる中でのコーディネーター役、全体をとりまとめる役割を担う機関が重要。
エコマップを使ってみて、他の人が挙げる協力機関とかが参考になった。	
サービス提供事業者	医療との連携の深さ。
	紙に大きくかいたエコマップがわかりやすくてとてもよかった。連携の大切さに気づいた。
	その人の生きる力を支えること。フラットな関係で各種専門性を発揮すること。
	全体像を描き、それぞれの役割、連携するためにはどうしたらいいかイメージできた。
	担当者会議の重要性。
	どの機関でも共通理解が必要。
	介護保険にしても精神障害にしても「生きる力」を支援することなんだなあと思いました。
地域包括	多職種が集まると様々な視点からの見方があったこと。
	多職種でチームとなって支援していくには、同じ方向、同じ視点、同じ考えで進めていくことが重要。
	多職種で話し合うことで、自分一人で考えもしなかったことに気づくことができた。
	多職種でのグループワークはとても充実していました。
	医療職・福祉職の見える部分ちがうが合わさるといろんな角度から見れる
	職種と役割は見える化が必要である。
	みなさん真摯にそれぞれのケースに向かいあってくれていること。自分一人でがんばらなくて良いんだと言うこと。
行政・その他	生きる力、本人、家族が望む生活を関係職種で支えることのすばらしさを実感した。
	どんなことでも「生きる力」がある。それを信じる。
	エコマップに落とし込み、関係、もっとかかわりの必要な点などもみえた。うまく連携しているポイントもみえた。
	新たな支援の種、多くの目で見ることによって、違う視点が学べて良かった。

3. 本日の研修会に参加して取り組んでみようと思ったこと(所属別)

所属	意見
医療関係	個人の犠牲に頼らないシステム作りが大切と感じます。
	Dr-Dr連携の推進
	顔のみえる関係と気軽に話ができる関係作り
	入院前情報をよく見る
	入院時から退院後を視野に入れて考えて、支援していきたい。
	患者さん1人1人に、いろいろな関わりがあり、1つに向かってよりよくしていこうとしている事を頭に置いて、接していこうと思った。
	・薬局の外へ行くこと ・他の職種の仕事内容に興味を持つこと
	地域との連携についての知識が、ほとんどないためもっと学ぶ必要があると思った。
	入院を受ける時、退院時の地域ネットワークを考え、サマリーをよみ、サマリーをかこう。
	地域の支援を知ること。
	退院時の家族へのアプローチ、またそれをケアマネへ伝え在宅がスムーズに行くよう協力したい。”退院したら終り”ではなくて。
	歩みよる気持ち…患者＝個人であるということ。各個人の立場にたって思いやりをもって関わる。
	必要とされる情報を提供すること。
	病院Nsとして地域との連携を今後も図っていきたい。
連携をしてく上で家族との情報交換をしっかり行い、本人にとってよりよい介護につなげていきたい。	
支援・サービスについて学習すること(情報提供できるように)	
ケアマネジャー	統合失調症の利用者には、受け入れて事業所がなくサービスが入りにくい。あきらめず1つずつ。
	サービス担当者会議のメンバーとして、社会資源をあらためて見直しされたように思います。
	担当者会議をタイミングよく行う(みきわめられるか?)
	障害に関して知識不足なので、学んでいかないといけないと思った。
	もう一度、モニタリング、アセスメントを振り返ってみようかと
	今以上に担当利用者の情報収集・状態かくにんを密にしていく。
	連携を密に、坦会を積極的に、医療関係者への呼びかけ
	フットワークの軽さ
	障害名に左右されず、ピュアな人としてつきあう
	本人の生きる力、希望を叶えるためには柔軟な対応が必要だと思った。
	医療職や地域の方との連携、関係作りを自分の担当しているケースの中にも取り入れられるように考えていきたい。
薬剤師に協力を求めたことがなかったので、何かあった時に協力を依頼してみようと思った。	
関係者の人数が多くて、会議やカンファレンスを重ねて連携、情報共有をしていこうと思った。	

3. 本日の研修会に参加して取り組んでみようと思ったこと(所属別)

所属	意見
サービス提供事業者	チームの一翼をになうにはじっくりかんがえたいとおもいます。
	今日の研修を仕事に生かしていこうと思っています
	勉強したい、知識をつけたいと感じました。
	社会資源、行政との関わり
	他職種間との連携の取り方
	情報の共有
	今日学んだ事を復習して、施設の職員に伝達する。
地域包括	まだまだほかの職種の役割
	どんな人にも、せいいっぱい接していこうと思った
	本人に対して、多くの人と手を取って支援していこうと
	各関連機関の把握
	包括で勤務して、まだ日が浅いため、たくさんの職種を知ることができた。どう関わればいいのか、もっと勉強していきたい。
	いつもの連携のワクにとらわれず連携すること
	医療ともっと関わっていこう。医師で参加してくださった中村先生のお話は本当に良かったです。ありがとうございました。(グループワークで)
	主治医との情報交換を密にする。
	他の角度を考えてみる
	もっと連携できる資源がないか考えるくせをつけること。
	双方の立ち位置(立場)を理解すること。理解しようとしてつとめること。
行政・その他	情報を一か所に集約し、共有すること。頻回に情報交換をしていること。
	今回のようなケースは今後増えると思うので、ケアマネだけでなく障害者の担当の方とも連携をとっていけたらと思う。
	今回の学びを色々なことへ広げていきたい
	看とりの希望を元気なうちに語り合う。「どんな風に、最後を向かえたいか」
	顔のつながりができた、今回も連携していくために必要と思われる情報を共有していけるようにしたい
もっと他機関を知る。	

4. 課題について

所属	意見
医療関係	情報の共有(3)
	介護職から医療職への相談、主体的活動など医療関係者がわからない所などお互いに情報交換し合う。
	それぞれ忙しくなかなか人数をそろえてのカンファレンスがひらけない
	情報の共有、連携
	地域を考えること。
	歯科が連携に入らないこと
	もっと顔の見える関係。
	地域で行われている支援について知らないことが多く、勉強していく必要があると思いました。
	視点を变えて、介護(日常生活)のことを考えての看護サマリーもしくは、情報提供を行いたいと思います。
	それぞれの立場が、自分の立場の仕事で終わってしまうこと。
	お互いの利害をこえて連携すること。もっとできることはないのかと話し合えること
	介護のことをもっと理解する
	情報交換、家族関係
	同じ情報を共有することが難しい。機会が少ない。
情報の共有をリアルタイムにみつにするには何が必要か	
居宅介護支援事業所	地域の開業医との連携。
	医師の理解
	医療は介護よりしきいが高く感じるDrともうまく連携していきたい
	Net4Uで先生(Dr)との連携が強まっていると思うが、Net4Uに入っていない先生との連携方法。
	サービス提供事業者ももっと連携スタッフに加って欲しい
	顔も見える関係づくり
	相談したい時に、同意書とか言われたり、担会以外ではダメだったりすると困る。
	相互の知識と理解を高める。
	精神と認知症の両方がまじった方々の支援について。
	自分で作っている壁(2)
	医療相談室を含めた医療側の柔軟な対応、退院後も必要があれば情報の共有が必要な場合もあるので、退院したら答えられないとシャットダウンしないでほしい。
	医療依存度が高い方の在宅介護。退院時の指導について。ヘルパーによる医療行為ができる事業所が少ない。難病・医療依存度が高い方のショートやレスパイト入院先がない
病院の看護師さんが在宅のことまではわからない。在宅の人は病院内の流れが分からない。その中で専門に分けつつ共有しようとするのが大切だし課題。	

4. 課題について

所属	意見
サービス提供事業者	地域、ボランティアももっと必要になってくるのでは？
	医療機関同士の関わり
	生きる力をサポートすることに対して、ケアマネジャーを中心に連携を継続しつづけることが重要であると思いました。
	顔を合わせる機会が少ないので、このような会で色々話し合うことが大切、積み重ねることが必要なのだと思います。
	ちょっとしたことでも連絡をとること
	連携がもっとスムーズに行くように心がけたいし、チームワークが重要だと思った。
地域包括	顔の見える関係。おっくうがらずにケースを通して相互に相手を知ること。関係者の目を借りて、より深く、対象の人間像を知ること
	よりお互いの領域について、詳しく知っていくことが大切だとも思います。
	関係のつくり方、結びつき。
	多職種についてもっと理解していきたいです。
	医療と介護を個別に考えてしまうこと。
	顔も見えない関係。情報共有・意思統一について
	相手が何をやる人かもっとよく知る
	Dr、Nsとのやりとり(大きなHP)は連携取れるようになったが、開業医とのやりとりが難しい。
	サービス担当者会議等により利用者にかかわれるカンファレンスを在宅主治医も含めて、もっとポピュラーにできるように。
	一つのケースでも相当エネルギーを費やしていると思うのですが、早く、類似ケースが出てきた場合、チームづくり、カンファレンス等のマニュアル化が進めばよいと思います。
行政・その他	共通認識をもつこと。研修会を通して学びを深める活動は大切だと思う(今後も継続を)。
	地域(地縁)の支援ネットワークの育成、地域のボランティア不足。
	市民の医療、介護連携の意識づけ。
	①地域住民の意識等②横のつながり、ずいぶん進んでいるが。

5. 次回の研修会に希望すること

所属	意見
医療関係	なし
居宅介護支援事業所	同様に職種が交流できる研修会 難病の方のレスパイト入院について
サービス提供事業者	ありがとうございました。 障害者(精神、認知)
地域包括	<p>毎回勉強になります。事例のグループワークは気付く事が多いと思います。事例紹介もまとまっていてわかりやすかったです。</p> <p>精神障害者への支援等、ちがった視点内容をみれてよかった。いつもの内容とちがって、毎回来ている人にはよい。精神NSの勉強よくかかわりわからない。</p> <p>事例は是非。</p> <p>アンケートを書く時間をきちんとろつたら良いかと思います。アンケートのお願いと片付けのお願いを一度にしてしまった為、みなさん「片付け」のほうばかり気をとられた様子でした。(スタッフが動き出したら、他の方も動き出してしまったようです。)</p> <p>入口の部分について初心に帰るのは。</p> <p>「4」の為の研修。</p>
行政・その他	<p>事例検討は良いと思う。</p> <p>実行委員の皆様ご苦労様でした。</p>